

大臣

電信課長

藤村

東亞 歐洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

昭和12 二八〇八五 暗

里馬 十一月二日後發
本省 三日後着

米

廣田外務大臣

藤村代理公使

第八八號

貴電第六七號ニ關シ（ふろりだ丸武器輸送ノ件）

三十日出帆許可ヲ與ヘタル處墨國大使ヨリ政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ搭載武器ハ同政府ノ所有物ニシテ何等反日的活動ニ關係ナキモノナル旨ノ公文ヲ送越スト共ニ武器ノ保險契約更新及同國ヨリノ特派軍人二名ヲ便乗セシムル）爲出發延期ヲ要請シ來リタルヲ以テ之ヲ受諾シ二日同船ヲ北航セシメタリ
墨へ轉電セリ

外務省

S

16001 1727

極秘

電信課長

大臣

東亞 歐洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

昭和12 二八四九一 暗

墨西哥 十一月五日發
本省 六日夜着

米、通

廣田外務大臣

越田公使

第一四六號、極秘扱

往電第一三八號ニ關シ

ふろりだ丸事件ハ相當當國政府ノ感情ヲ害シタル模様ナルコト右往電所報ノ通りニシテ此ノ際本使トシテモ一應ノ釋明ヲ爲シ置クノ要アリト認メタルヲ以テ十月三十日外相「ヘー」ニ面會シ日本船舶ハ支那仕向ケ武器ノ輸送ヲ禁セラレ居ル次第ヲ述ヘ曩ニ墨西哥政府カ「ポリビア」ヨリ購入シふろりだ丸ニ搭載ノ武器彈藥カ墨西哥政府用ノモノニシテ支那ニ輸送セラルルモノニアラサルニ於テハ圓滿解

外務省

S

16001 1728

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

印

決方斡旋致度キ旨述ヘタル處「ヘー」ハ墨西哥政府用云々ノ點ニ關シ明答ヲ避ケタルモ右ハ墨國政府ノ購入シタルモノニシテ絶對ニ支那ヘ仕向ケラルルコトナキ旨明言シタリ依テ右會見後本使ヨリ「ヘ」宛該武器カ支那行ニアラサルコトニ付貴下ノ證言アリタルニ付輸送許可相成様日本政府ニ電稟セル旨公文ヲ以テ通告シ置キタリ

墨國政府カ西班牙政府援助ヲ標榜シ居ル關係上本件モ表面上ハ支那輸送ヲ懸念シタルニ出テタルモノニシテ西班牙ニ輸送セラルルヤ否ヤハ全然問題トセサリシ建前ヲ持スルコト肝要ト思考シ右ノ通り措置シタル次第ニ付右ニ御承知置キ相成度シ

祕露ニ轉電シ米、桑港、羅府ニ暗送セリ

外務省

S 16001 1729

昭和12 二八四四八 暗

墨西哥 十一月五日發 六日後着

米、亞

廣田外務大臣

越田公使

第一四七號

在電第一四六號ニ關シ

三日伊國公使來館ふろりだ丸搭載武器ハ墨西哥政府用ナリトノ證言ヲ得タリヤト問ヘルニ付「ヘー」外相ハ支那向ノモノニアラサルコトハ斷言セルモ自國用ナリヤ否ヤニ付明答ヲ避ケタル旨ヲ告ケルト同時ニ墨國政府ハ武器受領ノ爲運送船ヲ派遣スル由ナルカ然ル時ハ「ベラクルス」港又ハ場合ニ依リテハ直接西班牙ニ赴ク惧モナシトセス之ニ反シ日本船ニ依レハ「マンサニヨ」港ニ來タリ積換等幾分

外務省

S 16001 1730

多クノ日數ヲ要スルコトナルノミナラズ實際問題トシテハ今ヤ西班牙政府軍ノ手迄輸送ノ途モナカルヘシト言ヘルニ同公使ハ然リ先頃ナレハ兎モ角今日ニ於テハ「ジブラルタル」海峡通過覺東ナケレハ本件武器輸送問題ハ全ク「アカデミック」ノ議論ニ過キスト言ヘリ尙本件武器ノ仲介者ハ「コンミツション」ヲ目的トスルモノニテ同時ニ支那向武器ニ付テモ策動シ居ルカ如シト附言セリ
前電通り轉報セリ

外務省

S 16001 1731

亞米利加局

告

第二課

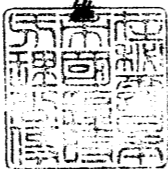
別紙

機密公第一八五號

昭和十二年十一月五日

在秘露

臨時代理公使 藤村 信



外務大臣 廣田 弘毅 殿

「フロリダ」丸ノ武器輸送問題ニ關スル件

本件ニ關スル經緯ハ既ニ電報ヲ以テ大要報告申進置タル通ナル處石補足旁々左記ノ通報告申進ス

本信寫送付先 在墨、智各公使

記

一、九月十七日朝在秘「フランコ」將軍代表 *Artiles* (前駐秘西國公使) 同夜獨逸公使 *Schmidt* 夫々本官ヲ訪問別紙第一號ノ如キ書類ヲ提示シ同月十五日「モリエンド」港出帆ク「フロリダ」丸ハ

在ベルー日本公使館

S 16001 1732

重量二千噸價格百三十萬弗ノ武器彈藥ヲ積込ミ右ハ黒國「マンサ
 ニーヨ」市 Latin American Export へ仕送コトトナリ居ルモ實ハ同
 港ヨリ「ヴァレンシア」政府へ送達セララルコト確實ニ付日本政府
 ニ於テ右運送ノ禁止又ハ妨害ヲ行ハレムコトヲ要シセリ 依テ本
 官ハ近ク「フロリダ」丸「カイヤオ」港へ到着ノ後事實ヲ調査シ
 可然處置スヘク返答ナリ

二、翌十八日獨逸公使ハ再ヒ來訪別紙第二號ノ如キ搭載武器ノ内譯
 表ヲ示シ右武器ノ内ニハ古物モ有之模樣ナルカ新物モ多ク要スル
 ニ表面上古物ヲ買フ如ク見セカケ武器運送ニ重要性無之カ如裝
 ヒ居レタリト注意セルカ之ト入替リニ當時里馬滯在中ナリシ「
 トルヒーヨ」駐在「ラルコ」帝國名譽領事來訪前記第一號ト同様
 ノ書類竝「フロリダ」丸積載貨物「マニフェスト」ヲ提示シ本問
 題ハ里馬ニ於ケル西國人ヲ相當昂奮セシメ居リ秘露有力者ノ間ニ
 モ日本カ赤色西班牙ノ援助ヲナスカ如キ状態ニアルハ不都合ナリ
 ト語ルモノアリト報告セリ

在ヘルー日本公使館

S 16001 1733

三、獨逸公使ノ示セル前記第一號ノ牒報ハ黒國「ラ、パス」市駐在
 「フランコ」將軍代表ヨリ來リタルモクニシテ「ラルコ」名譽領
 事ハ其ノ爲メ其ノ親懇ナル在里馬西班牙系商業家 Jordell ヨリ入手
 セル由ナリ(右書類ノ内容ハ「ラ、パス」「モリエンド」迄ノ武
 器運送狀況其他ヲ詳述シアリ)尙同名譽領事ハ其後同一筋ヨリノ
 情報ナリト別紙第三號寫ノ如キ書類ヲ持參セル處右ハ「チチカ
 カ」湖畔「プーノ」在ノ或ル秘露官憲ヨリ發給セラレタルモノラ
 シク右第一號書類同様右武器運送狀況ヲ説明シ居リ之ニテ相當西
 班牙側モ國際「スカイ」網ヲ張り居ルコト判明セリ

四、仍テ同十八日日本官ハ「フロリダ」丸船長ヲ召致事情ヲ聽取セル
 ニ右武器類ハ原運送契約ノ半分トナリ其ノ重量ハ彈藥類七百四十
 九噸武器二百十噸合計九百五十九噸ニシテ保險ハ二百萬弗モ掛ケ
 アリ「モリエンド」港ニテ右積込ノ際ハ「ラ、パス」ヨリ眞個ノ
 積出人 Arthur Briscoe (愛蘭系英國人)モ符ニ同港ニ來リ普通ナ
 ラハ川崎汽船代理店「ダンカン、フォックス」社ニ於テ之カ積荷

在ヘルー日本公使館

S 16001 1734

「グレース」社ノ「ランチ」ニテ積荷ヲ行ヒタルカ同地ニ於テモ右武器ハ「ヴァレンシア」行ナリトノ噂ヲ聞込ミタリトノ事ニテ船長自身ハ右荷物引受ニハ關係ナク本社カ「ヴァルバライソ」ノ代理店ト協力カ運送契約ヲナシタルモノニテ殊ニ其ノ運賃ハ「モリエンド」港ヨリ「マンサニヨ」迄一噸ニ付五十弗即チ普通荷物運賃ノ約十倍位ニシテ若シ契約通り二千噸ノ武器ヲ積込メハ一擧ニシテ十萬弗ヲ獲得スル事トナルニ付本社トシテモ喜ンテ引受ケタルモノナラント語レリ

五、仍テ本官ハ早速閣下ニ對シ其ノ處分方御訓令ヲ仰キタル次第ナルカ其ノ間「フロリダ」丸船長ハ全クノ弱氣トナリ會社ニ對スル奉公立ヨリ何トカ之ヲ「マンサニヨ」港迄運送シ行カント希望シ本官ニ無斷ニテ本社ニ對シテモ之カ「モリエンド」廻漕同地陸揚ニ大困難アル如キ電報ヲ發シタルカ本官ハ右陸揚ニハ秘露ノ立場上困難アルヤモ知レサレト兎ニ角右運送ヲ妨害シ之ニ時日ヲ消費セシムルコト肝要ナリト考ヘ船長トハ右陸揚ニ付テハ其ノ本社

在ベルー日本公使館

S 16001 1735

及代理店カ先ツ相手方ト交渉スル事トシ其ノ困難ヲ生シタル場合本官ハ再ヒ介入スル事ニ申合セ同船ハ本邦側ト打合セノ上九月二十三日一旦「カイヤオ」港ヨリ北航セリ

六、同船ハ其後命ニヨリ秘露「エテン」港ヨリ南ヘ引返シ豫定ヨリモ早ク十月十日「モリエンド」港ヘ到着セル處其ノ前日當地代理店ニ付模様ヲ訊ネタルニ同港陸揚ハ現地秘露官憲ノ不許可ノ爲不可能ナル旨聞込タルニ付本官ハ同十日日曜日早速幕利比亞公使ニ面會幕利比亞政府ニ於テ「ラ、パス」在任ノ荷出人カ右荷物返還受取ヲ承諾スル様説服方要請セルカ同公使ハ右武器ハ同國政府ヨリ既ニ一個人ニ賣却セルモノニテ政府トノ關係ハ無之モノ故政府トシテハ何トモ致方ナシト逃ケ政府ヘ電照ハスヘシト承諾セルモ事實上電照セルヤ疑ハシ

七、仍テ本官ハ翌十一日（月）早朝諸員ヲ海相ノ許ニ派シ「モリエンド」港陸揚方要請セルニ同相ハ同港ニテハ爆發危險物保管倉庫ナキ爲陸揚ハ困難ナルカ「カイヤオ」港ニ於テナラハ其ノ陸揚ヲ

在ベルー日本公使館

S 16001 1736

許シ安全ニ保管方便宜ヲ與フヘク其後仕末ハ日本側ニテ可然取計
ハレ度シト回答セリ（海相ノ態度ハ當初ヨリ相當明瞭ニシテ當方
ニ好意アリ其後モ「フロリダ」丸「カイヤオ」港廻航ノ際右陸揚
ヲ要請セルニ同相ハ右陸揚許可方ニ付外相ト口論迄爲シテ努力
カシ吳レタルモ下記ノ如ク外務省ニ於テハ其ノ決斷付カス結局右實
現セサリシ譯ナリ）

八、本官ハ十一日外相ニ面會セルニ同相ハ全ク非公式ノ話ナリトテ
右武器ニ付日本政府ノ意嚮ヲ訊シタルニ付本官ハ極東事態急ナル
際日本ハ日本船カ行先ノ不明ノ武器ヲ運送スルコトヲ不都合トシ
之カ回漕ヲ命シタル次第ナリト述ヘ是非「モリエンド」港陸揚ヲ
要請セルニ前記海相同様之ヲ不可能（後駐秘墨國大使ヨリ聞込タ
ル處ニヨレハ當時墨國側モ武器ノ同港陸揚ヲ要請セルモ拒絶セラ
レタル由）トシ「カイヤオ」港ナラハ何トカ考慮スヘシト爲シタ
ルニ付早速別紙第四號ノ通右武器ノ陸揚方ニ付公文ヲ以テ要請シ
置キタルカ次テ十三日會見ノ際同相及同次官ハ秘露法令上武器ノ

在ベルー日本公使館

S 16001 1737

輸入ハ「カイヤオ」港ニ限ルヘキ處十二日墨國側ヨリ右武器ハ同
國政府ノ所有物ニ付之ヲ「カイヤオ」港ニ陸揚方要請アリタリト
テ其ノ公文寫ヲ示シ本官ノ意見ヲ問ヒタルニ付之ニ對シ日本政府
モ同港ニ陸揚出來得レハ満足ナリト答ヘ置キ同船ニ對シテハ「カ
イヤオ」廻航方指令セリ

而シテ其後十四日ニハ外務次官ハ本官ニ對シ打開ケ話トシテ秘露
モ日本同様「イデオロギー」上ハ反共產主義ニシテ本件武器カ「
ヴァレンシア」行ナルコト明白ナルニ付之カ墨國行ヲ好マサルモ
本品カ墨國政府所有物ニシテ且秘露ハ日本ト異リ未タ國際的ニ其
ノ反共主義ヲ阐明シ居ラス又墨國トモ表面上友好關係ヲ維持シ居
ル以上本品ニ對シ決定的處置ヲ爲ス事ヲ得ス甚タ困却シ居レリト
語レルニ付本官ハ日本モ墨國トハ友好國ニシテ其ノ官有物ヲ何ト
モ處分スルコトハ出來サルニ付本官トシテハ兎ニ角其ノ運送ヲ妨
害シ時日ヲ消費セシムル方法ヲ執ルヨリ外ナシト辯シタルニ同次
官モ之ニ贊成ニテ其ノ爲ニ本品ヲ「カイヤオ」港又ハ同港對岸ノ

在ベルー日本公使館

S 16001 1738

「サン、ロレンソ」島ニ陸揚スル事トスヘシト爲シ秘露側ハ一旦右陸揚ニ贊成シタル次第ナリ

九、然ルニ其後當時病臥中ナリシ大統領ニ本件ハ報告セラレ大統領ハ右陸揚ハ之ヲ好マストノ意見ヲ吐キタルモノノ如ク十八日本官カ外相ニ面會ノ節ハ「カイヤオ」陸揚ハ決定的ニハ非ルモ不可能ニハ非スト折レタシ次テ十九日次官ニ面會ノ際ニハ國內ノ治安維持ノ必要上即チ御承知ノ如ク過激派（註、**アプリスタ**）ノ策動ヤ好奇心ヲ抑フル爲ニハ右陸揚ハ甚タ面白カラサルニ付政府ハ墨國側ニ對シ若シ墨國カ船ヲ「カイヤオ」迄特派スル時ハ秘露ノ領海内ニ於テ日本船ヨリ直接墨國船ニ對シ積糶武器ノ積移シヲ爲サシムヘントノ提案ヲナシ墨國側ハ今之ヲ研究中ナリト述ヘ秘露ハ日本側ノ要求ヲ容レ度次第ナルモ實ヲ云ヘハ本件ハ公式ノ問題トシテハ秘露ニ全然關係無キモノニ付（武器ノ募國ヨリ秘露通過ニ付テハ秘露條約上秘露ハ暮利比亞ヨリノ出荷ニ對シテハ其ノ品物ノ如何ニ拘ラス之カ自由通過ヲ許ス義務アリ從テ武器カ秘露領ヲ通

在ベルー日本公使館

16001 1739

過シタルコトニ付テモ秘露側ニ責任ナシトノ意見ナリ）日本側モ之ニテ満足セラレタシトノ意見ニテ全然問題ニナラス 其後外相及次官ニ「カイヤオ」陸揚ヲ要請スルモ全ク無効ニシテ其間本官ハ絶ヘス駐秘獨伊公使ト接觸シ本館ニ關シ其ノ協力ヲ求メ兩公使モ秘露側ニ種々交渉シタルモ效ヲ奏セス伊國公使ノ如キハ「カイヤオ」陸揚要求ハ全ク話ニナラサルニ付寧ロ「フロリダ」丸ヲシテ故意ニ海難ヲ起サシメ武器ヲ海中ニ投スルカ最善策ニテ自分ナラハ之ヲ決行スヘシト意氣捲ク有様ナリ

十、然ルニ一方「フロリダ」丸ハ「カイヤオ」ニ回航シテ段々日ヲ重ネ船長ハ相當苦慮シ居タル模様ニテ其ノ間再ヒ本官ニ無斷ニテ右武器ノ積出人 **Briscoe**（同人モ心配シテ里馬迄出張シ來レリ）ニ面會シ同人ノ紹介ニテ在秘墨國公使館員ニ面會スル等面白カラサル行動アリ之ニ對シ嚴重警告ヲ與ヘ置キタル處二十日ニハ墨國公使館書記官 **Crespo** 本官ヲ訪問同大使ノ命ニヨリ墨國ハ己ム無クハ汽船ヲ「カイヤオ」迄特派スヘキモ問題ノ武器ハ實ハ墨國政府

在ベルー日本公使館

16001 1740

ノ所有物ニシテ墨國ハ幾ニ多量ノ國內武器ヲ西班牙政府軍ニ賣付タル爲今ヤ國內自國軍隊ノ武器迄不充分トナリタル結果其ノ使用ノ爲之ヲ購入シタルモノナルカ右ハ古物 (second hand) 武器ニ付(前顯(二)項獨逸公使ノ所言御參照) 政府トシテハ當初ヨリ之ヲ公表シテ諸國ニ對シ墨國カ古物購入ヲナシタルコトヲ宣傳スルヲ欲セス仲介人ヲ置キテ之ヲ購入セシモノニテ此際秘露側ニテモ之カ「カイヤオ」陸揚ヲ拒絕シ居ル故日墨兩國間ニ何トカ妥結出來サルヤト申出タルニ付本官ハ之ニ對シ自分ニハ日墨交渉ノ權限無シト返答シ置ケリ

十一、然ルニ此間ニ於テ帝國政府ニ於テモ問題ヲ早急解決セララルコトヲ希望セラレ又一方秘露外相ハ既ニ二十五日ノ會見ニ於テ墨國ハ船ヲ特派セリトノ情報アリト語リシモ次官ハ右ニ付テ極メテ曖昧ナルノミナラス墨國大使モ其ノ事實ヲ知ラス他方伊國側ハ例ノ通武器ノ海中放棄ヲ獨逸ハ武器ノ日本迄運送ヲ希望シ居タルモ結局諦ヲツケ日本ノ決定ニ從フ外ナキ旨語ルニ至リシヲ以テ本

在ベルー日本公使館

16001 1741

官モ遂ニ本省ノ御訓令ヲ受ケ墨國大使ヨリ本品カ其ノ政府使用品ナリトノ明約ヲ取付ケ問題ヲ解決スル事トナリ二十七日同大使ヲ往訪日本政府カ「フロリダ」丸ニ對シ本件武器ノ輸送ヲ禁止セルハ右武器ノ取引カ所謂冒險家ニヨリテ行ハレ其ノ終局ノ行先ニ付色々噂ノミナラス相當信スヘキ情報モアリテ日本トシテハ極東ノ事態急ナル際右武器カ墨國ヨリ直接支那ニ輸送セラレ又ハ間接ニ歐洲ヨリ支那ヘ輸送セララルカ如キコトヲ防止セムカ爲日本ノ法律ニ基キ適法ノ處置ヲ執リタル次第ナリ然ルニ貴下ハ曩ニ秘露側ニ對シ公文ヲ以テ右ハ其ノ政府所有品ナリトノ明言ヲ與ヘラレタル由ナルニモ拘ラス日本ニ對シ墨國又ハ日本ニ於テ直接同様ノ明言ヲ與ヘ問題解決ヲ早メラレサリシハ甚タ不審トスル處ナリ就テハ本件ハ墨國側ニテモ至急解決ヲ希望セラレ居ルト存スルヲ以テ貴下ヨリ本官ニ對シ右ハ墨國政府ノ所有品ニシテ其ノ使用スル處ニ屬シ何等日本ノ利益ニ反スルカ如キモノニ非ストノ公文ヲ發セラレハ本官ハ日本政府ニ對シ責任ヲ以テ本問題ノ圓滿解決ヲ盡

在ベルー日本公使館

16001 1742

カスヘント語レルニ同大使ハ右ノ如キ公文ヲ送レハ日本政府カ武器ノ「マンサニヨ」港輸送ヲ許スコトニハ合理的確實性アリヤト念ヲ押シタル後本村ニ關スル右ノ如キ日本ノ懸念ハ然無用ノコトナリトテ前顯(十)項其ノ書記官ト同様ノコトヲ述ヘ自分トシテハ直チニ公文發送シテ差支無キモ墨國政府ニ於テ既ニ汽船ヲ「カイヤオ」向出帆セシメ居ルヤモ知レサルニ付兎ニ角政府ノ意嚮ヲ聞クヘント答ト同日直チニ本國政府ヘ電請セリ

次テ同大使ハ本國政府ノ回答ハ少シ遅レ二十九日夜到着セリトノコトニテ三十日朝「クレスポ」書記官ヲ本官ノ許ニ遣ハシ別紙第五號ノ如キ公文ヲ寄セ本件武器ハ同國政府ノ所有品ニシテ反日的活動トハ關係無キモノナリトノ明約ヲ與ヘタリ 右ハ本官要求ノ中「右武器ハ同政府ニヨリ使用セラルルモノナリ」トノ明言ヲ避ケ些カ不充分ノ趣アリシカ同朝本官ハ本省ノ命ニヨリ既ニ「フロリダ」丸ニ出帆許可ヲ與ヘ同船ハ準備ヲ了シ出帆ノ間際ナリシト此ノ上墨國ヲ追究スルコトハ日墨間ニ無用ノ紛議ヲ生スヘント考

在ベルー日本公使館

16001 1743

ヘ右明約ヲ受取り右書記官ニ對シ「フロリダ」丸ノ「マンサニヨ」行エ付確證ヲ與ヘタリ

十二、然ルニ同日墨國大使ハ右明約ト共ニ本件ニ關シテハ同政府ハ甚タ苦慮シ遂ニ汽船ヲ雇ヒテ既ニ之ヲ「パナマ」迄航行セシメタルカ(右ハ其後秘露外務次官ノ言ニヨルモ事實ナリト認メラル)「フロリダ」丸ノ「マンサニヨ」行ハ大體確實ト認メタルニ付更ニ飛行機ニテ陸軍將校二名ヲ里馬ニ派遣シ同大使ニ特別ノ訓令ヲ與フルト共ニ右二名ヲ「フロリダ」丸ニ乗船歸國セシムルコトニシ右ハ十一月一日里馬ニ到着スヘク又現在迄迂濶ナリシモ右武器ノ運送保險契約期限カ既ニ切レ居ルコトニ氣付キ(右事實ト認メラル)之ヲ「ラ、パス」及倫敦ニ於テ更新スル必要アリ就テハ日本側ニ於テ二三日右汽船ノ出帆延期方頼ミ度ト申出タリ仍テ本官ハ右ニ對シ當時反對スヘキ理由ナシト認メ之ヲ承諾セリ

越テ十一月二日前記墨國政府派遣ノ *Flemón Yegre Ruiz Pardo Sanchez* 兩陸軍大尉ハ里馬ニ到着本官ヲ往訪シ來リタルニ付右ニ對シ當方

在ベルー日本公使館

S 16001 1744

ノ事情ヲ説明シタルニ先方ハ極力右武器ハ墨國內ノ使用ニ充ツルモノナリト辯疏シ本國政府ニハ日本側事情モ良ク説明スヘシト述ヘ同日午后「フロリダ」丸ハ「カイヤオ」出帆北航セルニ付同人等モ之ニ便乗（特ニ武器ヲ監視スル目的ヲ有シ居リタルモノト考ヘラル）歸國シタリ

十三、右ニテ本件ハ一段落ヲ告ケタルカ此間「フロリダ」丸カ「エテン」港ヨリ南航「モリエンド」港ニ至リ次テ「カイヤオ」ニ回航シ同港ヨリ結局北航スル迄約一ヶ月相當右武器ノ運送ヲ妨害シタル處此間當地新聞ハ事實上右事件ニ付何等關知セサリシモノノ如ク單ニ一回當地紙ハ「ラ、パス」U.P.トシテ慕國政府ハ同政府カ「メキシコ」經由「バレンシア」政府ニ武器ヲ賣却シタルトノ噂ハ無根ナリトノ聲明ヲ發シタル旨小サク報道セラレタル處本事件ハ其ノ結末ニ至リ遂ニ當地新聞紙ノ探知スル所トナリ「ラ、ブレんサ」紙ハ遅レ走ナカラ「フロリダ」丸出帆ノ日タル十一月二日ノ紙上ニ其ノ特種トシテ「フロリダ」丸ノ「カイヤオ」抑留ハ

在ベルー日本公使館

S 16001 1745

「ヴァレンシア」政權宛送付ト噂セララル搭載武器ニ關スルモノニテ本事件ニハ日、暮、墨及西班牙ノ四ヶ國カ關係シ居ル重大ナル外交問題ナリト極メテ「センセイヨナリー」ニ之ヲ報道シ次テ同日「ラ、クロニカ」ハ其ノ「武器取引」ト題スル社説ニ於テ世界不安ノ際ニハ武器賣買カ盛トナリ「フロリダ」丸ノ事件モ同様ニテ右武器ハ墨國經由「ヴァレンシア」政權ニ送ラルルモノナリト論シタリ

而シテ右新聞ノ取扱ニ對シテハ前者ニ於テハ二日「ラ、ブレんサ」紙ノ要請ニヨリ本官ハ本問題ハ重大復雜ノ事柄ニ非スシテ極メテ簡單ナル問題ニテ日本政府ハ之カ墨國政府所有品ナリトノ事實ヲ知り「フロリダ」丸ノ北航ヲ許セリト説明シ又墨國大使ハ同シク日本側ノ説明ノ通ナリト爲シ又慕國公使ハ右ハ慕國政府ノ關知セサル處ナリト聲明同紙ハ之ヲ三日ノ紙上ニ掲載セリ
又右第二ノ記事ニ關シテハ墨國大使ハ同日ノ「クロニカ」紙上「同紙ハ右武器ヲ以テヴァレンシア宛ナリト爲シ居ル處右ハ墨國政

在ベルー日本公使館

S 16001 1746

府カ普通商業ノ形式及國際法ニヨリ獲得セル同政府ノ所屬品ニシテ之ニ對シ別段ノ解釋ヲ與フルハ當ラス」トノ聲明書（別紙第六號）ヲ發表セリ

十四、本件全體ノ外交經緯竝諸種ノ情報ヲ綜合スルニ

イ、日本側ハ防共的見地ヨリ相當武器ノ墨國行妨害ノ目的ヲ達シタルカ

ロ、秘露側ハ當初ヨリ豫想通り首鼠兩端責任逃レヲ爲スコトニ關心セリ

ハ、又墨國側ハ當初ヨリ何カ故ニ日本側ト直接交渉ヲ爲サザリシヤハ甚タ不審ニシテ結局日本ニ對シ右武器カ其ノ官有品タリトノ明約ヲ與ヘタルモ其ノ動機ニ於テ今尙不詳ナルモノアルカ如ク認メラレ其爲同國側ハ日本側カ右武器ニ對シ相當極端ナル措置ヲ執ルニ非スヤト危懼シ居タルモノニ非スヤト認メラル

ニ、獨伊ハ勿論大イニ日本側ニ加擔シ本官モ毎日ノ如ク兩國公使

在ベルー日本公使館

S 16001 1747

ニ面會諸種打合せヲ行ヒタルカ其間獨逸公使ハ大體日本側同様權建論ナリシニ比シ伊國公使ハ常ニ極端論ヲ吐キ居リシハ相當三國民ノ國民性ヲ反影シ居リシモノト認メラル

十五、尙本官ハ「フロリダ」丸出帆後十一月六日秘露外務次官ニ面會其ノ事情ヲ説明セルニ甚タ満足ヲ示シ又獨伊兩公使ニモ同様説明其ノ要請ニヨリ兩者ニ對シ前顯墨國大使ノ明約公文寫ヲ送付シ今後ハ墨國ニ於テ日獨伊三國ニテ本件武器ノ行衛ヲ監視スヘシト申合セタリ 就テハ在墨公使ニ於テモ本件充分御注意相成様致度

尙獨伊兩國公使モ本官同様右墨國側ノ明約ハ相當曖昧ニ付當方ニ於テハ其ノ「反日的活動」云々ノ字句ヲ廣義ニ解釋シ之ニ西班牙等ノ共產主義ヲ支持スルモ反日的活動ト解釋スヘシトノ意見ヲ開陳セリ

事實上假リニ墨國カ右武器ヲ國內使用ニ限ルトスルモ其ノ代リニ既ニ國內ニ存スル武器ヲ西班牙等ニ買却スルニ至ルコトアルヘク

在ベルー日本公使館

S 16001 1748

又伊國公使ノ言ニヨレハ在「ラ、パス」「ヴァレンシア」政府代
表ハ右武器ノ暮國輸出ニ付甚タ關心ヲ示シ居タル由ナリ
十六、最後ニ「フロリダ」丸關係ノ武器ハ當初二千噸ノ運送ヲ契約
シ事實上一千噸ヲ積込ミタルニ付殘部一千噸ハ猶暮利比亞ニ殘存
シ居ル善ノ處「ラルコ」名譽領事ノ聞込ニヨレハ其ノ殘存武器ハ
尙三千噸位アルラシク近ク墨國ハ今回ハ方向ヲ換ヘ二隻ノ諾威船
ヲ智利國「アリカ」ニ派遣シ同地ヨリ之ヲ積込ム豫定ナリトノ事
ニシテ之亦相當注意スル要アルヘシ

以上

在ベルー日本公使館

S 16001 1749

EMBajADA DE MEXICO
EN PERU

No. 894.

C O P I A

分
立
号

Lima, octubre 30 de 1937.

Señor Encargado de Negocios:

En relación con los antecedentes del caso, tengo el honor de informar a Vuestre Señoría que he recibido instrucciones de mi Gobierno para manifestarle, oficialmente, que el cargamento de armas, municiones y explosivos que se encuentra a bordo del vapor "Florida Maru", es propiedad del Gobierno de México, no teniendo relación alguna con cualquier actividad contraria al Japón.

Aprovecho esta ocasión para reiterar a Vuestra Señoría las seguridades de mi atenta y distinguida consideración.

Moisés Sáenz

HONORABLE SEÑOR NUBUO FUJIMURA,
ENCARGADO DE NEGOCIOS DEL JAPON.
PRESENTE.

S 16001 1751

EL MATERIAL DE GUERRA DEL "FLORIDA MARU"

FUE ADQUIRIDO POR MEXICO.

De la Embajada de México, se nos envía la nota que, en seguida publicamos acerca de lo ocurrido con el "Florida Maru" en el Callao.

En la nota editorial intitulada "El negocio armamentista" que publicó LA CRONICA en su edición del día tres del presente, se da la impresión de que el material de guerra que lleva el vapor "Florida Maru" a Manzanillo tiene alguna relación con el Gobierno Español.

Al respecto deseo confirmar nuevamente que el material de referencia pertenece al Gobierno de México quién lo adquirió mediante una transacción comercial pura y simple, realizada de acuerdo con la usanza del comercio y del derecho internacional por lo que no cabe dar a este asunto interpretaciones de cualquier otra naturaleza.

Lima, noviembre 3 de 1937.

El Embajador de México

Moisés Sáenz.

S 16001 1750

No. 34.

Lima, 11 de Octubre de 1937.

Señor Ministro:

El vapor "Florida Maru" de propiedad de la Kawasaki Kisen Kaisha en el Japón embarcó el día 15 del setiembre próximo pasado en el Puerto de Mollendo un cargamento de 959 toneladas de armamentos y municiones que tiene por destino el Puerto de Manzanillo, México y se partió hacia el norte, pero al llegar el día 7 del presente mes al Puerto de Eten, último punto de escala en el Perú, recibió instrucciones de su Casa Matriz en el Japón en el sentido de que, de acuerdo con la orden dada por el Gobierno del Japón ese vapor debía proceder inmediatamente al puerto de Mollendo para descargar allí mencionados armamentos y municiones.

Por lo cual, el vapor llegó el día 10 del presente a Mollendo, pero las autoridades en ese lugar no autorizan desembarque de dicho cargamento, encontrándose el vapor en una situación parada y perturbada.

Originalmente, el embarque de esos armamentos en Mollendo el día 15 de setiembre se ha hecho sin consultar de ningún modo, al Gobierno Japonés, el que por consiguiente, no tuvo conocimiento en absoluto al respecto.

El

Al Excelentísimo Señor General don César A. de la Fuente,
Ministro de Relaciones Exteriores.

CIUDAD.

S 16001 1753

El Gobierno del Japón, por otra parte ha de estimar inconveniente que el vapor transporte los armamentos con destino desconocido, tomando en cuenta el desarrollo de los acontecimientos actuales en el Extremo Oriente. Referente a estos acontecimientos, el Japón ya tiene establecido una ley, poniendo en práctica una medida de prohibición, restricción y otro control sobre la navegación en el extranjero de vapores mercantes japoneses, de cuyo acuerdo se ordenó viaje de regreso a Mollendo de ese vapor para descargar sus cargamentos en cuestión.

Una vez vuelto el vapor a dicho puerto, encontró rechazado el desembarque por las autoridades del lugar, lo que no solamente pone ese vapor en difíciles condiciones sino también sirvió a desanimar al Gobierno del Japón, en vista de lo arriba expresado.

Con tal motivo, suplico a Vuestra Excelencia, bajo instrucciones de mi Gobierno que el Gobierno del Perú se digne tomar en cuenta de la verdadera intención del Gobierno del Japón en el asunto y que se sirva impartir especialmente permiso de descarga de esos artículos en cualquiera de Mollendo, Callao u otros puertos peruanos.

Agrego a Vuestra Excelencia que los gastos de descarga se pagará naturalmente por la compañía naviera interesada y que después de haber terminado la descarga, el Gobierno del Japón hará todo cuanto esté a su alcance para que la mencionada compañía naviera tome pasos necesarios sobre la mejor disposición de estos artículos.

Aprovecho esta oportunidad para reiterarle, Señor Ministro, las seguridades de mi más alta y distinguida consideración.

S 16001 1752

Puno, 17 de setiembre de 1937.

Señor don Eduardo Beroldo.-

Lima.-

Muy estimado don Eduardo:-

Muy grata sorpresa he tenido al recibir su afectuosa carta de fecha 8 del presente, la que llegó a mi poder con atraso, debido, seguramente, al mal servicio de correos.-

Fervoroso admirador de la causa nacionalista, ya tenía la intención de escribirle a nuestro común y correcto amigo, el señor Morales; pero, causa ajenas a mi voluntad me impidieron hacerlo.-

Recibida su carta, me apresuro a comunicarle todos los detalles del asunto a que se refiere, que, indudablemente es de suma importancia.-

Es efectivo que el Gobierno Boliviano ha venido material bélico, aparentemente para México; pero con seguridad para los gobiernistas de España.- El intermediario en la venta ha sido un señor Irlandés, que responde al nombre de Arthur F. Briscoe.- Me aseguran que éste ha logrado negociar con el Gobierno de Bolivia, la venta de un cargamento de 4 mil toneladas de armamentos; pero lo que ha llegado a este puerto en tránsito a México, son 20904 bultos con peso bruto de 941536-kilos, en tres vapores, "Ollanta", "Inca" y "Coya", los días jueves 9, viernes 10 y domingo 12.- Todo fue conducido a Mollendo en siete trenes que fueron custodiados por siete empleados de esta Aduana.- El cargamento bélico está compuesto de ametralladoras, rifles, y municiones, éstas en su mayor parte.-

Por noticias fidedignas, tengo conocimiento que todo el cargamento ha sido embarcado en Mollendo al vapor japonés, "Florida Maru", que ha zarpado en la tarde del miércoles 15 con rumbo a Manzanillo.- No sé si este vapor hará escala en Callao.-

El interesado Briscoe viaja en autocarril a Mollendo para presenciar el embarque, y según me dice debe regresar a La Paz el próximo martes 21, para continuar sus gestiones sobre el resto de armamentos que le han ofrecido venderlo.-

Respecto de la munición, debo decirle que es mala, según opinión del comandante Lazo, que la ha examinado y es un perito en la materia.- Si los amigos se interesan podría mandarles una muestra de los proyectiles tanto de rifle como de pistola.- puede usted hacerme un telegrama que diga: "Renita encargo", y yo trataría de mandarles por aereo.-

S 16001 1755

- 2 -

No han continuado los embarques en Bolivia, porque parece que el pueblo no está satisfecho con la venta, y no quieren que siga la alarma; pero, según me dijo Briscoe, dentro de treinta días a más tardar se hará un nuevo embarque de 1500 toneladas.-

Para que el Perú permita el tránsito de ese cargamento ha sido necesario que la Legación de México vise la documentación; pues, de otra manera no se habría permitido el pase.- Este asunto lo conocí hace un mes, y desde esa fecha se ha venido tratando con nuestro Gobierno.-

Cualquier otro dato que juzgue usted interés, pídamelo que será usted atendido de inmediato.- Dígame a los amigos Morales y Mosquera que estoy a sus órdenes.-

El Prefecto Dongo no ha podido viajar a Lima, por indicaciones de la Dirección de Gobierno que cree necesaria su presencia en ésta hasta el 24 de los corrientes.- Después de esa fecha realizará su viaje.- Es conveniente que usted lo busque en Lima y trate de conseguir que lo ayude en su asunto.

Lo saluda muy afectuosamente su obsecuente amigo y servidor.

S 16001 1754

15000 rifles Mauser Cal. 6,75
 40 millones de cartuchos 7.65
 111 ametralladores Vickers
 80 ametralladoras ligeras, Schneider
 10 millones cartuchos 9 mm para id.
 4 cañones Schneider cal. 75.
 3271 granadas para id.
 4 cañones Schneider
 2792 proyectiles Schrapnel
 6 cañones Krupp
 1792 proyectiles Schrapnel para id.
 4 cañones Krupp cal. 60
 1208 proyectiles Schrapnel para id.
 30 morteros de trinchera 105
 6000 granadas para id.
 14 morteros de trincheras 47 mm
 3000 granadas capacidad normal 47 mm
 3000 granadas 47 mm

分
 三
 号

Valor de la venta \$ US 1.700.000.-
 Valor asegurado \$ US 2.208.000.-

S 16001 1756

REEL No. A-0617

0457

アジア歴史資料センター

Informe sobre compra y envío de armas, destinadas a Valencia, por intermedio de México, NÚMERO 4.-

El Viernes 27 de Agosto se reunieron los agentes comerciales y los que intervienen en la venta a objeto de cambiar supuestos, sobre las posibilidades del buque. Llegaron a la conclusión, de que no había que pensar en ello, por lo menos hasta el 15 de Septiembre más o menos, fecha en que había de aparecer en la costa un buque japonés que llevaba rumbo a México, única nave donde se podría hacer el envío, ya que no existían líneas de vapores que hagan el servicio regular en ese sentido.

El lunes 6 del corriente, nos han informado de que como tenían previsto el vapor japonés "Florida Maru" estaba en el puerto de Mollendo, Perú, sobre el día 14 del mes. Y que se habían contratado con sus agentes una carga de dos mil toneladas, destinada a Manzanillo (México.)

El valor de las especies contratadas es aproximadamente \$ 2,000,000 y no 1,700,000, como se había dicho antes. Es decir, que siempre se trata del que existe en el banco, para ser negociado, con cargo, el seguro se trata de hacer por dos millones, y ya se negoció a efectuar una compañía inglesa que en principio hizo la oferta de 4 por mil de comisión, pero que desistió por que el central de Valparaíso Chile, rechaza esta clase de negocio. Este revela que los agentes, piensan dar por pagada la segunda suma con lo que se obtendrá una buena comisión, pues no se concibe que por gusto se trate de pagar tanto seguro.

Han corrido voces de que se había desistido de esta compra-venta en favor de Valencia pero nuestro informante, dice que se había hecho para despiantar, tanto en lo expuesto, como en la especie que también circuló de que la carga iría a la China o al Japón para aquellos beligerantes. Otra fuente de información, nos corrobora con exactitud todos estos datos, y además, dice que en la junta de compra-venta, existía el temor de que no llegase la carga a tiempo al puerto y que el buque salga.

Hay día 8 Miércoles, un caballero vinculado estrechamente a la Legación peruana, manifiesta a un señor español el deseo de entrevistarse con el miembro de esta Junta encargado de este asunto, a quien no conoce. En efecto, a las seis de la tarde se reúne con él, y proporciona los siguientes valiosos datos: Salida de Mollendo, vapor, tonelaje y destino, concuerda exactamente con los anteriores informes. La carga salió ayer de La Paz, y esta noche cruzará el Lago Titicaca, 700 toneladas que amanecerán en Puno, puerto fronterizo del Perú. Refiere las dificultades que han tenido los remitentes con la Peruvian Corporation, empresa del F. C. del Perú y ramal de Bolivia, a causa de que ha tenido 60 carros parados, y encargados especialmente buen número de días, esperando la resolución de los interesados.

La carga va sin marcas seguramente para distraer la vigilancia, y como va en trenes especiales, no la necesita por lo visto. Esta circunstancia se sabía ya, el Gobierno del Perú y sus representantes desde Lima a La Paz, tienen el propósito de entorpecer este envío para los rejos. Los agentes de esto, procuran hacer el envío con cierto misterio, por otra parte no comprensible. A las seis de la tarde, no se habían corrido las películas y documentos pertinentes en el consulado peruano que según ley debe respaldar a toda carga y más en este caso, por ser mercadería que necesita ciertos requisitos, y que solo puede traficarla un gobierno. Este al parecer, se inhibe de tomar persona como despachador, y en cambio es el Banco Central y la Aduana, quienes remiten. Si no se ha hecho trámite oficial ante las autoridades del Perú, mañana el cargamento que llegue a Puno indocumentado será decomisado, primero por que así sucede de ordinario, y después por que en este caso, existen instrucciones. La única gestión hecha oficialmente ha sido en la mañana de hoy, que el ministro boliviano en Lima se presentó en la cancellería y verbalmente solicitó licencia para el tránsito de esas armas, alegando que eran para la causa nacionalista. Se le dijo que no había tal y que eran para el bando bolchevique, por lo que en el Perú, creía un deber oponerse a ello. El representante afirmó que así eran las noticias que tenía y que consultaría a su gobierno. (Puede ser cierta la inocencia manifestada por el mencionado representante, ya que los interesados procuran enredar

Informe reservado # 4.- Pág. 2.

las informaciones, para sortear ciertas voluntades adversas.) En la opinión del informante, el gobierno peruano tratará por todos los medios de evitar o entorpecer el tránsito, pero estima que en esta buena voluntad pueden primar los convenios comerciales y de tránsito vigente con el estado boliviano. Si este oficialmente le pide, tendrá que accederse, sin perjuicio que entre un posible cambio de notas, se pasara el tiempo, y el vapor se fuera. Como esto es eventual, entiendo que hay que combatir por otros medios, y aconseja comunicarse con el Sr. Avilés ministro de Salamanca en Lima, y con las legaciones amigas en la misma capital, a objeto de que hagan una acción conjunta acerca de la cancellería peruana, que con estas reclamaciones, o respaldándose en ellas, y en la misma ideología del país, pueda combatir bajo ciertos puntos de vista la intervención de estas autoridades. Incluye en Lima puede el Sr. Avilés mover a la prensa, en favor de la causa con motivo de esto, que siempre sería un buen medio de oposición. En este plan, trataremos por medio de los representantes amigos, ya que no tenemos clave-avisar y mover nuestras relaciones en Lima, lo que se gestionará mañana.

En la misma noche de hoy, uno de nuestros informantes nos proporciona estos datos: Cajas en viaje sin marca, 2,000 cajas conteniendo armas, y 23,438 con municiones. El cargamento saldrá consignado a Latin American Export Company, Manzanillo (México). Informe de toda fe.

Desde hace tiempo se ha hablado de un lote que existía en Checoslovaquia. Inquieto por ello, y por tener ciertas noticias sobre una compra con intervención de este país por medio millón de libras esterlinas, se hallaba un diplomático amigo de nuestra causa. Nuestras gestiones en una y otra parte no daban resultado puesto que nadie tenía la menor noticia. Esta tarde, un militar de importante altura amigo de nuestra España, basó al miembro de esta Junta, que se entienda más de cerca con estos asuntos, y le dio la información que sigue: Un militar ministro del pasado gobierno fue enviado en misión por el ministro, con fines comerciales y de inmigración a Berlín y centro de Europa. Este señor, sin duda de acuerdo con los rejos o sus amigos, estaba tramitando la compra de diversos armamentos en Checoslovaquia, en nombre del gobierno de Bolivia. Este no sabía nada, y por esta razón, nadie daba ningún dato. El plan era claro. Las potencias amigas de Valencia, para sustraerse a los comités y a vigilancia de los países contrarios, necesitaban un país comprador como figura definitiva, que no podía inspirar sospechas por estar muy apartado de Europa. Venidas las armas, estas se quedarían en el tránsito y no saldrían de Europa para tomar el rumbo de Valencia. El servicio secreto de uno de nuestros países amigos, descubre este turbio asunto. Su representante se dirige a este gobierno con datos concretos que evidencian la verdad de lo que está ocurriendo y la postura desairada que tendrá el país, cuando se denuncien los hechos en su oportunidad. Las autoridades como era de esperar se disgustan y alarman. Enseguida se pone un cable al ministro en Alemania, para que se dirija oficialmente al gobierno checo, y declare que el país no compra nada, y que desautorizan a la persona o personas que hayan tomado su nombre.

Esta información obtenida de fuente gubernamental, es corroborada por diplomático antes aludido que vigilaba este asunto, y que en virtud de su intervención, se ha informado por medio oficial de que el Comité de No Intervención, se le ha avisado por medio del ministro en Londres, de que este gobierno se inhibe de este asunto. Se cree que con este queda terminado y trunco este negocio en el que se entienda que iba a correr gruesas comisiones.

La Paz, 8 de Setiembre, de 1937.

S 16001 1757

十一月六日着

在墨 越田公使發

廣田外務大臣宛
十一月三日伊國公使來館シムル多クは尤格載武器ハ墨國政府用ナリト
ノ證書ヲ得タリヤト質問セルヲ以テ「ヘー」外相ハ右武器ハ支那向
ケ輸送セラレルモノニアラサルコトヲ證書セルモ墨西哥政府用ナリ
ヤ否ヤニ付テハ明答ヲ避ケタル次第ヲ告ケルト同時ニ墨西哥政府ハ
武器受取ノ爲運送船ヲ差向ケル趣ナル方然ル時ハ「ベラクルス」港
又ハ直接西班牙ニ赴ク惧ナシトセス之ニ反シ日本船ニ依レハ「マン
サニョ」港ニ來タリ積換等ノ爲其ノ間幾分日子ノ遲延ヲ計リ得ルノ
ミナラス事實問題トシテモ既ニ西班牙政府軍ノ手迄武器輸送ノ方法
ハナカルヘシト述ヘタルニ同公使ハ然リ先頃ナレハ兎モ角今日ニ於
テハ既ニ「ジブラルタル」海峡通過サヘ覺束ナク本件武器輸送問題
ハ益ク「アカデミツク」ノ議論ニ過キスト曾ヘリ尙本件武器輸送ノ
仲介者ハ「コンミツション」ヲ目的トスルモノニテ支那武器ニ付テ

外務省

16001 1759

モ何等策動ヲ爲シ居ル模様ナリト附言セリ

外務省

16001 1760

十一月六日着

廣田外務大臣宛

在墨 越田公使發

ふろりだ丸事件ハ墨西哥政府ノ感情ヲ相當害シタル模様ナルカ本使
トシテモ此ノ際一應釋明ヲ加ヘ置クコト必要ト認メタルニ依リ十月
三十日外務大臣「ヘー」ニ面會シ日本船舶ハ支那向ケ武器ノ輸送ヲ
禁止セラレ居ル旨ヲ述ヘタル上曩ニ墨國政府カ「ボリビア」國ヨリ
購入シふろりだ丸ニ搭載セル武器彈藥カ墨國政府用ノモノニシテ支
那ニ輸送セラルルモノニアラサル限リ圓滿ナル解決方斡旋致度キ次
第ヲ述ヘタル處「ヘー」ハ墨國政府用云々ノ點ニ關シテハ明答ヲ避
ケタルモ右ハ墨西哥政府カ購入シタルモノニシテ絶對ニ支那ヘ仕向
ケラルルモノニアラサル旨明言シタリ依テ右會見後本使ハ「ヘー」
ニ對シ該武器カ支那向ケニアラサルコトニ付貴下ノ證言アリタルヲ
以テ輸送許可方日本政府ニ電稟セル趣公文ヲ以テ通告シ置キタリ
墨西哥政府カ西班牙中央政府援助ヲ標榜シ居ル次第モアリ本件モ表

外務省

12.9 S 16001 1761

面上ハ支那向ケ輸送ヲ懸念シタルニ出テタルモノニシテ西班牙政府
ニ輸送セラルルヤ否ヤハ全ク之ヲ問題トセサリシ建前ヲ持スルコト
肝要ト認メ右ノ如ク措置シタル次第ニ付右ニ御了知相成度シ

外務省

12.9 S 16001 1762

昭和十二年十一月十三日

外務省御中

拜啓 陳者

「弊社ふろりだ丸秘露」モレンド」港積墨西哥「マンサニヨ」港行

武器彈藥輸送ニ係ル件

既ニ御高承ノ通り永ラク御配慮ヲ煩ハシ候本件今回各關係先ノ円満御諒解ヲ得テ本船去ル十一月二日「マンサニヨ」港向「カヤオ」港發航仕候間何卒右御高承被下度候

曩ニ貴省御命令ニヨリ本貨物積戻シノ爲メ弊社ハ本船ヲ秘露各港貨物積取りノ後「エテン」港ヨリ「モレンド」港ヘ引返ヘシ更ニ貴命ニヨリ「カヤオ」港ニ轉航セシメ秘露駐劄帝國代理公使ノ御協力ノ下ニ御指圖ノ通り貨物陸揚ノ爲メ最善ヲ盡シ候得共四圍ノ情勢ハ當底御命令ノ實行ヲ許ササル状態ト相成リ徒ラニ時日ヲ遷延スルノミニ終ル形勢ト相成候處幸ニ其後御關係方面ト円満ナル御諒解ヲ得ラレタル趣ニテ

結局當初豫定通りニ本船就航致ス事ニ相成リ如上記出帆仕リ候次第ニテ御高配ノ段厚ク御禮申上候

乍併之ガ爲メ弊社ハ本船就航日取甚敷ク遷延シ本航路經營上各方面ニ直接間接不尠支障損失ヲ蒙ルノ結果トナリ本船遷延ニ依ル直接損失丈ニテモ大約左記ノ通りト相成候ニ就テハ本件ノ特殊性ニ鑑ミ弊社ノ立場御高察ノ上損失填補ニ關シ何分ノ御諒議賜リ度重ネテ奉悃願上候 敬具

左記

FLORIDA MARU

(1) Ship's Demurrage

Callao	Sept. 21, p.m. - Sept. 23, Noon	Days	Hours
Callao	Sept. 21, p.m. - Sept. 23, Noon	1	20
Mollendo	Oct. 6, 7 p.m. - Oct. 10, Noon	3	17
Mollendo	Oct. 10, Noon - Oct. 16, 10 p.m.	6	10
Mollendo	Oct. 16, 10 p.m. - Oct. 18, Noon	1	14
Callao	Oct. 18, Noon - Nov. 2, 2 p.m.	15	2
Callao	Nov. 2, 2 p.m. - Nov. 4, 5 a.m.	1	15
Callao		30	6

Demurrage at 7.50 per 9,114.3 tons

168,927.-

川崎汽船株



16001 1764

16001 1763

17/11/22

16001 1765

S

(2) Consumption			
Banker Oil	Days	hours	Diesel Oil @ 4.5
Sailing	6	16	Fuel Oil @ 7
			30 tons
			47 "
In port	23	- 8	Diesel Oil @ 0.5
			Fuel Oil @ 0.5
			12 tons
			12 "
			Fuel Oil @ 0.5
			59 @ 25.-
			Fuel Oil @ 25.-
			1,302.-
			Fuel Oil @ 25.-
			1,357.-
Beller Water	S/	800	@ 85
			680.-
			<u>¥ 3,339.-</u>
(3) Port Charges			
Mollendo	S/	426	
Callao	S/	3,410	
	S/	3,836	@ 85
			¥ 3,261.-
(4) Insurance A.P.			
On Hall,	approximately	¥ 800.-	
On Cargo	" "	1,000.-	
			¥ 1,800.-
(5) Estimated amount of claim from shippers against delayed delivery of cargo:			
Sorap	3,300 tons		
Copper Ore	2,000 "	about US\$12,500.-	@ 29.-
Sugar	1,000 "		
			<u>¥ 43,103.-</u>
(6) Telegram, Telephone and Sundries			
Kobe,	Cables	¥3,130.-	
	Telephone	360.-	
	Sundries	500.-	
		<u>¥2,990.-</u>	
San Francisco,			
Lima,			
Valparaiso	about	¥5,000.-	
			<u>¥ 7,990.-</u>
			<u>¥ 128,420.00</u>
			Total -----

以上

16001 1766

S

電信課長

大臣

官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

分類A門6類0項0目/1-12-1

昭和12 三一一九四 暗 里馬 十一月三十日後發 亞、米、歐 本省 十二月 一日前着

廣田外務大臣 藤村代理公使

合第二六號

本使發墨宛電報

第七號

二十六日及二十七日「ベラ・クルス」發「ユー・ビー」ニ依「Iao
及 Motomr」ノ二隻ノ西班牙船ハ同港ニ於テ最近南米ヨリ「マンサヨ
イヨ」港經由鐵路輸送サレ來リシ武器ヲ積載中ナル由ナルカ右ハ例
ノふろりた丸運送ノモノニアラスヤト認メラルルニ付獨、伊兩公使
トモ聯絡ヲ執ラレ至急交渉ノ上御回電請フ

該外子内政關係報以奉

外務省

S 16001 1767

大臣へ轉電シ智利暗送セリ

外務省

S 16001 1768

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 三一五二四 暗 墨西哥 十二月二日後發 亞、米、歐
本省 三日夜着

廣田外務大臣

越田公使

第一六二號

本使發秘宛電報

第五號

貴電第七號ニ關シ

本件武器ハ目下軍隊監視ノ下ニ西班牙船舶ニ積込中ナルカ本件ハ既ニ相當墨國側ノ感情ヲ害シ居ルコトモアリ（本邦虎列刺流行ヲ理由トシ本邦人ノ入國ニ制限ヲ加ヘタルコトモ右武器問題ニ對ズル一種ノ報復行爲ト觀測セラレ居レリ）此ノ上墨國側ヲ刺戟スルカ如キ措

外務省

S 16001 1769

置ニ出テサル方然ルヘシト思考ス
智ヘ暗送セリ

外務省

S 16001 1770

REEL No. A-0617

アジア歴史資料センター

編者言
原書ハ
A. 2. 0. 0. B/1
英伊外交交渉
ニ在リ

(分類 A. 6. 0. 0. 1-12-1-1)

昭和13 三九三五 (暗)

羅馬 二月十一日前發
本省 十一日夜着

堀田大使

廣田外務大臣

第五五號 (極秘)

十日求メニ依リ外相ヲ往訪セルニ英伊交渉ニ關シ左ノ通り内話セリ
英伊交渉ニ關シ客年十一、十二兩月間英ヨリ何等申出テ來ラサリシ
カ一月七日英大使來訪英ヨリ未タ何等ノ意思表示ヲ爲ササルハ英伊
協調ヲ欲セサル意味ニアラスシテ慎重研究ヲ重ネツツアル爲ナレハ
諒承セラレ度キ旨申出アリ其ノ後何等ノ展開ナカリシニ依リ先日貴
使ニ對シ英伊交渉ハ停頓ノ状態ニ在ル旨御話セシ次第ナリ(往電第
四七號末段參照)然ルニ昨八日英外相ハ伊大使ニ對シ英伊交渉開始
ヲ提議シ今日兩者ノ間ニ會談アリ先程伊大使ヨリ電話ニテ話ハ順
調ニ進ミツツアル旨申越セリ
抑々英伊間ニハ種々ノ問題アルモ伊ヨリ問題中最モ重大ナルハ「エ

外務省

16001 1771

「チオビア」併合ノ法律的承認ナレハ從來之ヲ包含スル全般的問題ニ
付交渉センコトヲ主張シ居リ英ノ容ルル所トナラサリシカ今次ノ會
談ニ於テハ「エチオピア」問題及西班牙問題(西班牙ニ於ケル英國
ノ權益ヲ如何ナル程度ニ伊太利カ尊重スルヤヲ明確ナラシメントス
ルモノ)カ交渉ノ二大起點ナリト語リタル後今回ノ會談ハ全ク英ノ
「イニシアチブ」ニ出ツルモノナルコトヲ説明シ且在英大使へハ英
伊ノ協調ハ伊國政府ノ最モ希望スル所ナルモ防共ヲ中心トスル日獨
伊三國提携ノ關係ニハ一指ヲモ染ムルヲ許ササル前提ノ下ニ英トノ
話合ヲ進ムヘキ旨特ニ訓令セリ英伊交渉開始ニ關聯シ種々ノ世評行
ハルヘキニ依リ豫メ右ノ實情友邦タル日本政府ニ内報スル次第ナリ
ト附言セリ
在歐各大使(土ヲ除ク)、壽府へ暗送セリ

外務省

16001 1772

極秘

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

620.001-12-1

昭和13 五九八〇 暗 サラマンカ 三月二日後發 歐
本日 省 三日夜着

廣田外務大臣 高岡代理公使

第五〇號ノ一(極秘)

伊大使内報

一、伊トシテハ義勇兵撤退ハ一部分ニ止メ先ツ比較的少數ヲ有スル側
ノ撤兵數ヲ決シタル後右ニ比例スル割合ヲ以テ多數ヲ有スル他方
ノ撤兵數ヲ決定シ同時ニ西葡國境ヲ除キ西佛兩國國境ヲ閉鎖セシ
メ度キ意向ナルカ尙撤兵ニ先立チ西佛兩國國境閉鎖ヲ實施セシメ
ントスル腹案ヲ有ス赤色義勇兵カ一方ヨリ撤退シ乍ラ他方西佛兩
國國境ヨリ入西スル「トリツク」モアリ警戒ノ要アリ「イーデン」

外務省

S 16001 1773

落外國内政干係推員
西國郵部内札干係

辭任セルニ付或ハ兩當事者ニ對スル交戰團體權承認カ先決トナル
ヤモ知レス何レニモヨ不干渉委員會ノ成行ニ據ル處蘇聯邦カ萬事
反對スルノミナラス調査團派遣種々手續完了等愈々實行迄ニハ少
クトモ數箇月ヲ要スヘク夫レ以前ニ致命的打撃ヲ與フル作戰ナリ

(續ク)

外務省

S 16001 1774

極秘

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文報 調查 儀典 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和13 五九七九 暗 本 省 三月二日後發 三日夜着 歐

廣田外務大臣 高岡代理公使

第五〇號ノ二(極秘)

三、(軍略ハ臨機應變的ナルモト前提シ)馬德里ハ政治的以外重視ス
ルニ足ラサルヲ以テ後廻シニシ軍事のニ赤軍ノ心臟部タル「カタ
ルニア」ヲ急撃スルト共ニ西佛兩國國境ノ軍事の遮斷ノ爲近ク(一
十日以内位ノ豫定トモ謂フ)「アラゴ」戰線ヨリ「バルセロナ」
方面ニ攻撃開始ノ準備中ナルカ同地方ノ占領ハ他地方ニ對スル決
定的勝利トナルヘシ
三、從來「フランコ」自身内心最後の勝利ニ據ル速決ヲ惧レタルカ右

外務省

S 16001 1775

ハ英佛等民主國トノ國際關係ノ複雜化ヲ豫想シ且内部諸勢力ノ葛
藤發生等ヲ懸念セルニ起因シ先ツ内部統制ノ強化及占領地域ノ完
全ナル整理等準備工作ノ爲漸進主義ヲ執レルモ最近撤退問題ノ實
現性ニ鑑ミ漸ク速決ニ傾キ又「フランコ」等ハ大規模ノ近代の實
戰ノ經驗ナク遺憾アリシモ戰略上獨伊ノ助言ヲ容ルルニ至レルヲ
以テ今後ハ急速進展ノ見込ナリ
在歐各大使へ暗送セリ

外務省

S 16001 1776

寫

情報部 15

A-62040-12-1

郵政局

郵便局第一二九號 第二課長

昭和十三年六月五日

在黑河

副領事 豊原 幸夫

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉 殿

チエツコスロヴァキヤトフランコ政権トノ交渉

開始ニ關スル放送ノ件

蘇聯邦カ自己ノ政策上面班牙フランコ政権ニ對シ事毎ニ不利ノ言ヲナシ居ルハ御承知ノ通ナル處六月三日夜滿洲放送局チエツコ政府トノ開フランコ政府トハ兩國内ニ夫々總辦事處ヲ開設スルコトニ協定成立シタルコトヲ放送スルト共ニチエツコ新聞ハ右協定

在齊齊哈爾日本總領事館黑河分館

Handwritten notes and stamps, including a date stamp '13.6.13' and a signature.

S 16001 1779

ニ關シ兩國政府ハ其政策及攻撃者トノ間チエ關シ新ル辦事處ヲ設ケタルハ誤レル行爲ナリト観測シ居ル旨放送ヲ行ヒ居タリ

本領事館送付先 外務大臣 哈爾濱

S 16001 1780

在齊齊哈爾日本總領事館黑河分館